

2026年4月1日から

“RSウイルス母子免疫ワクチン”

が定期接種になります

生まれてくる赤ちゃん
のためにお母さん
が接種する

RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症は、生後1歳までに50%以上、2歳までにほぼ100%が初感染します。症状は軽度の感冒様症状から下気道症状(咳、呼吸困難、喘鳴)まで様々で、特に生後6か月未満で感染すると重症化しやすいといわれています。日本では毎年約12万~14万人の2歳未満の乳幼児が感染し、そのうち約1/4に入院が必要とされています。

RSウイルス母子免疫ワクチンについて

妊婦さんに接種することにより、母体のRSウイルスに対する中和抗体価を高め、胎盤を通じて母体から胎児へ抗体が移行することで乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の発症や重症化を予防します。

アブリスポの有効性と安全性

有効性：医療機関の受診を必要とするRSウイルス関連下気道感染症に対して生後90日で57.1%、180日で51.3%の減少が認められ、重度のRSウイルス関連下気道感染症に対しては生後90日で81.8%、180日で69.4%の減少が認められました。

安全性：起こる可能性のある副反応としては、接種部位の疼痛や頭痛、発熱などですが、ほとんどが軽度から中等度でこれまであるワクチンと同等程度です。

定期接種の対象：妊娠28週0日から妊娠36週6日までの妊婦の方

(4/1からの公費負担の定期接種を受けられるのは分娩予定日が2026年4月23日以降の方です)

◎接種後14日以内に出生した児については、移行抗体が十分でない可能性があります。したがって

当院では妊娠28週0日から妊娠35週0日までの接種をお勧めしています。

2026年3月9日(月)以降、26週前後の健診時に対象の方に順次、接種予約についてのご案内をさせていただきますので慌てずにお待ち下さい。

予約は病院ホームページからとなりますが、26週の予約案内を受けてからの予約となりますので、ご案内前のご予約はお控えいただきますようお願いいたします。

ひたちなか市以外に住民票があるかたはお住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

ワクチンや予約についてご不明な点については来院時にスタッフにおたずね下さい。

お急ぎでない電話でのお問い合わせはできるだけ控えていただくようご協力お願いします。

